

この度の西日本豪雨により被災されました皆様にご心からお見舞い申し上げます。併せて、避難されておられます皆様や復旧作業に従事されておられます皆様の安全と、一日も早い復旧を重ねてお祈り申し上げます。

本校は、体験学習にも力を入れています。その中でも次の2つのことをご紹介します。

【体験学習の大切さ】

① 福祉コース介護実習

7月5日(木)から7月10日(火)の4日間、3年生福祉コースの生徒たちが、介護実習の体験学習を行いました。介護現場を体験することによって、これまでの学習の成果を活かす機会や施設で働く方々の様々な職種に触れることで、今後の進路選択に活かすことを目的としています。また、3年生は「介護職員初任者研修」を年間130時間学習しますが、その一環としての実習となります。将来、「介護福祉士」の国家資格を取得するため、実務者研修が450時間必要となりますが、高校在学中で学習する130時間は免除可能となります。生徒たちは、意識を高く持ち実習に取り組み、介護のプロフェッショナルとして、地域そして日本を支えていく気持ちを、この実習を通して、強く持ってくれたようです。生徒の感想は、以下の通りです。



- ① 実習で自分に足りないことがたくさんあることが分かり、もっと頑張りたいと思った。
- ② 介護職の厳しさを体験できて良かった。また、あいさつやコミュニケーションをとることで、やりがいのある仕事だと強く感じた。
- ③ 笑顔のことで褒められることで、誰かを少しでも幸せにしたいと思った。

② 「地域連携型交流学习」

3年生ビジネス情報科の生徒たちは、毎週木曜日に上益城郡の企業様を中心として、年間20日間に及ぶ長期のインターンシップ、つまり「地域連携型交流学习」の体験学習を行っています。3日から5日間の短期インターンシップは、多くの学校で行われていますが、長期にわたる体験学習は、本校の特色の一つだと思います。職業観や勤労観をより身に付けることはもちろんのこと、あいさつやビジネスマナー等長期にわたり学ぶことで、即戦力の人材を育てることを大きな目的としています。生徒たちは、商品知識を習得する難しさやコミュニケーションの大切さなどを日々肌で感じ、信頼される社会人となるために一步一步着実に、階段を登っているようです。生徒の感想は、以下の通りです。



- ① 実習をすることで、感じる責任の重さが違う。
- ② お客様のこと、つまり、人のことを第一に考えることがいかに大切であるかが分かり、社会人としてやっていける自信がついた。
- ③ いつもよりご飯がおいしく、また、夜ぐっすりと眠れる。実習での充実感がそうさせているのだと思う。